

川越市立美術館 令和2年度事業報告

■新型コロナウイルスの影響による臨時休館について

臨時休館は、令和2年度中2度にわたり、休館した開館予定日は 134日間に及んだ。

1回目 令和2年3月3日から6月18日まで休館（完全休館）

（令和2年度で休館した開館予定日68日）

3月2日決定、翌3月3日から31日まで臨時休館

3月27日決定、4月19日まで休館延長

4月8日決定、5月6日まで休館延長

4月28日決定、5月31日まで休館延長 ※施設の新規予約受付も中止

5月29日決定、6月18日まで休館延長 ※県をまたぐ移動が可能となるタイミングまで休館とした

2回目 令和2年12月28日から令和3年3月21日まで休館（事前予約のある貸室は使用可）

（休館した開館予定日66日）

12月25日決定、12月28日から1月17日まで臨時休館 ※混乱を避ける目的で、事前予約のある貸室は使用可とする

1月8日決定、2月7日まで休館延長 ※同上

2月5日決定、3月7日まで休館延長 ※同上

3月6日決定、3月21日まで休館延長 ※同上

■展示

特別展

当初は例年通り、年4回の常設展示替え、年4本のタッチアートコーナー展示、年4本の特別展示の実施を予定していたが、4月の緊急事態宣言の発出（4/7）をきっかけに、特別展は一度、すべてを白紙とした。

感染症の動向を見ながら、すでに準備が進んでいた春季特別展「吉田博展」を年度内に開催できないか検討したが、巡回の都合があわず断念。代わりに館蔵品で構成する「相原求一朗展アンコール」を冬季特別展として開催することとした。

しかし、「相原求一朗展アンコール」会期はすべて臨時休館期間と重なり、公開できないまま会期終了となった。

常設展・タッチアートコーナー

常設展示及び無料で公開するタッチアートコーナーは、当初計画どおり4期分の展示を実施することとした。

ただし、タッチアートコーナーについては、夏季特別展の一部会場として使用するはずだった夏季展示は無し、とした。また、公開できた期間がわずかであった春の「四家真理子展」、冬の「伊藤一洋展」については、令和3年度に引き続き展示をお願いした。なお、タッチアートコーナーの特徴である「触察」はお断りしている状況である。

春季特別展 没後70年 吉田博展	中止
夏季特別展 画業60年のかわいい伝説 花村えい子と漫画	中止
秋季特別展 江戸のお洒落装身具 奇跡の其角堂コレクション	中止
冬季特別展 創業200周年記念 フィンレイソン展	中止
冬季特別展 コレクション大公開 相原求一朗展アンコール	中止
常設展示	4期開催
タッチアートコーナー	夏季のみ中止

■教育普及

教育普及事業は8月まで自粛した。

当館主催の事業に関しては、人数を減らす（ジュニア アートスクエア）、会場を広げる（図工・美術わくわくフェスタ）などの工夫で実施できたものもあったが、教育委員会・学校との連携事業は、当館ガイドラインだけでは対応しきれないものもあり、何度か検討を重ねたものの実施に至らなかった事業も多い。

そのなかで、新しい試みとして実施できたのは「川越市立中学校美術部第3学年WEB作品展」である。例年、夏休み時期に行っている「川越市立中学校美術部展」の開催が難しくなり、せめて3年生の作品だけでもWEB上で展覧会ができないか、というアイデアから実施された（公開は12/1-3/31）。また、例年、アートホールを会場に開催する「金沢健一展」や「図工・美術わくわくフェスタ」だが、今年度は当館ガイドラインの定めで2階アートホールは閉鎖、逆に企画展示室が空いていたため、広い展示空間で開催することとした。また、これらの催しはサポートの機会を失っていた「サポート・スタッフ」の活動の場ともなり、良い展示・良い機会となった。

集まって、え・み～る（常設展ギャラリートーク）	中止
子ども鑑賞会（園児向けギャラリーーツアー）	中止
ジュニア アートスクエア（小学生以下対象ワークショップ、毎月実施）	9月から小学生対象で人数を減らして実施（未就学児は付き添いが必要となるため密回避の観点から対象外とした）
ワークショップ「ミニ灯籠を作ろう」（博物館連携事業 8月）	中止
学校連携事業「川越市立中学校美術部展」	「川越市立中学校美術部第3学年WEB作品展」としWEB上で実施中
学校連携事業「ミュージアム×スクール」（市内学校への作家を含めた協力授業 10月）	川越市立山田小学校3年生を対象に実施・渡辺忍氏（彫刻家）
彩の国教育週間「図工・美術わくわくフェスタ」（11月）	会場をアートホールから企画展示室にかえ、中学生の共同制作を館職員による作業に変更して実施
令和2年度川越市小・中学校児童生徒県特選受賞作品展（12月）	中止
学校連携事業「4校美術部展」（GW）	中止

金沢健一展（展示＋ワークショップ＋パフォーマンス、10月）	展示会場をアートホールから企画展示室にかえ実施
実技講座「仏画を描く」（昨年度3月募集した企画の延期開催、11月）	実施
実技講座「仏画を描こう2」（上記の定員を減らしているため、再度同内容で実施、2月）	中止、再延期 →R3に実施済み
タッチアートワークショップ「石のかけらでつくるランプシェード」5月	中止
タッチアートワークショップ「黄昏のブロンズ溶解デモンストレーション」1月	中止（延期）→R3に実施済み
教員職員鑑賞会（特別展毎）	中止
小・中学校の先生のためのアートカードワークショップ（2月）	中止
Kart サポート・スタッフ	サポート回数が激減したものの実施
《協力事業》川越市立小学校6年生バス見学（6月～10月）	中止
《協力事業》学校連携授業 出前授業 図画工作科の授業づくりの支援、造形活動の指導	川越市立仙波小学校5年生対象に実施（7月・9月）、川越市立高階西小学校特別支援学級対象に実施（1月）

■管理運営

消毒液の確保や飛沫防止パネルの準備などハード面の整備、日本博物館協会が定めた「博物館ガイドライン」に準ずる「川越市立美術館ガイドライン」を策定、安全に館運営にあたった。なお、新型コロナウイルスによる影響は以下のとおり。

市民ギャラリー

利用可能日 229 日中、利用日 138 日（利用率 60.26%）

利用件数 20 件

中止及びキャンセル件数 25 件

創作室

利用可能コマ数 687 コマ中、利用 171 コマ（利用率 24.89%）

中止コマ数 80 コマ（4/1-6/18 分）

審議会等

川越市立美術館協議会（美術館の運営について審議）

→ 通常年 2 回開催するところを 1 回、書面会議にて開催

川越市立美術館美術品等選考評価委員会（作品の収蔵の可否について審議）

→ 中止

川越市立美術館利用研究委員会（美術館と学校利用について審議）

→ 年 2 回開催

作品管理

新型コロナウイルスの影響により、当館収蔵の前段階で必ず通すべき「川越市立美術館美術品等選考評価委員会」が開催できなかったため、令和 2 年度に新たに収蔵できたのは、令和元年度会議ですでに評価を受けていた長澤英俊作「秋津の風」1 点のみとなった。

コロナ以外の件として、施設維持管理関係の実施報告は以下のとおり。

トイレ洋式化

アンケートで要望が多かったトイレの洋式化と、ウォシュレット導入を行った。

常設展示室及び企画展示室 立ちケース内蛍光灯安定器取替修繕

造り付けのケース内の蛍光灯安定器を取り換え、調光可能な状態に戻した。